

科目名	博物館概論		
担当教員名	樋口 一貴		
ナンバリング			
学 科	学芸員課程（E）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

博物館（美術館）で学芸員として勤務経験を有する教員が、資料の扱い方や展示方法を実際に示しながら講義する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

学芸員資格取得課程科目である。学芸員課程科目のうち初年次に履修する基礎的な科目として、博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養うことを目的としている。

##### 科目の概要

博物館の歴史および今日の博物館の目標、事業、組織、運営形態などを概観し、博物館の定義、機能、存在意義について、博物館を利用する社会との関係において理解する。

##### 授業の方法（ALを含む）

博物館的施設の歴史や、博物館法に基づく博物館の定義、博物館の機能と役割について講義を中心とした授業を行う。また、実際に博物館に複数回見学会を行い、一般来館者としてではなく博物館側の視点で博物館を理解することを学修する。

##### 到達目標

現代社会における博物館の役割や意義を学び、学芸員の使命や活動内容の理解する。また、今日の日本の博物館における目標、事業、組織、運営形態を、諸外国の事例と比較することで、現状の整理・把握をする。

#### 内容

この授業は講義を基本に、見学会、資料を用いた実習的要素を取り入れながら、学びを深めてゆく。

1	イントロダクション
2	博物館の歴史
3	博物館の定義
4	博物館の機能と存在意義
5	博物館資料の収集・保存・管理
6	博物館資料の研究・展示
7	日本の博物館の歴史
8	日本の博物館の種類
9	日本の博物館の活動（見学授業）
10	博物館の運営形態

11	展示の企画と運営
12	博物館展示と教育普及活動
13	学校教育との連携
14	生涯学習の場
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】日本国内にはさまざまな種類の美術館・博物館があるので、その多様な活動内容や収蔵品について調べておく（各授業に対して60分）。

【事後学修】ノートを見返して、授業の内容を見直しておく。また、なるべく多くの種類の博物館を訪れてみる（各授業に対して60分）。

#### 評価方法および評価の基準

授業への参加度20%、授業内レポート20%、筆記試験60%（現代社会における博物館の役割や意義を学び、学芸員の使命や活動内容の理解する30%、今日の日本の博物館における目標、事業、組織、運営形態を、諸外国の事例と比較することで、現状の整理・把握をする30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の冒頭で、前回授業のリアクションペーパーの質疑やコメントを取りあげて全員で共有し、回答・詳説することで理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する

【参考図書】授業内で指示する

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

博物館や学芸員についての入門編であるので、この分野に関心のある学生には積極的に履修して欲しい。

科目名	博物館資料論		
担当教員名	樋口 一貴		
ナンバリング			
学 科	学芸員課程 (E)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

博物館（美術館）で学芸員として勤務経験を有する教員が、資料の扱い方や展示方法を実際に示しながら講義する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

学芸員資格取得課程科目である。博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、また博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を養う。

##### 科目の概要

博物館における資料の収集、研究、公開・普及、保存・管理について取り上げ、その資料の価値の共有をはかりながら適切に将来に引き継ぐという役割について考察する。

##### 授業の方法（ALを含む）

博物館法に規定される博物館の役割である資料の収集、研究、公開・普及、保存・管理について講義するとともに、実際に博物館に赴いて資料活用の実際のあり方を学修する。

##### 到達目標

資料保存について基礎的な知識を取得する。そのみならず、資料利用、資料展示(公開)、博物館教育活動、情報メディアなどとの関連性を理解する。

#### 内容

この授業は講義を基本に、見学会、資料を用いた実習的要素を取り入れながら、学びを深めてゆく。

1	イントロダクション
2	博物館の活動と資料
3	モノから博物館資料へ
4	博物館における資料の収集
5	資料に関する研究
6	データベースの作成
7	調査研究成果の社会還元
8	資料公開の準備
9	博物館資料を活用した教育普及
10	資料を公開する設備とコンディション

11	資料の保存
12	公開と保存のバランスに関する問題
13	資料の修復
14	アーカイブ資料とは何か
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】国内外の博物館の収蔵資料にはどのような種類のモノがあるのか、書籍やWEBサイトで調べておく（各授業に対して60分）。

【事後学修】ノートを見返して、授業の内容を見直しておく。また、実際の博物館を訪れて、資料公開の現場を知るように心がける（各授業に対して60分）。

#### 評価方法および評価の基準

授業への参加度20%、授業内レポート20%、筆記試験60%（資料保存について基礎的な知識を取得する40%、資料利用、資料展示(公開)、博物館教育活動、情報メディアなどとの関連性を理解する20%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の冒頭で、前回授業のリアクションペーパーの質疑やコメントを取りあげて全員で共有し、回答・詳説することで理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する

【参考図書】授業内で指示する

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など